

# 新病院整備事業市民説明会のご意見・質問概要

令和6年7月26日（金）午後7時開催

会場：はがてらす

※ホームページの公表に際し当日の発言のままではなく表現や内容を整理・精査しています。

## ◆新病院の機能に関すること

### No. 1 【新病院の機能について】

質問	現在の診療科目と新病院の診療科目は、なにか違いがあるのか。
回答	<p>新病院の外来診療科目は、基本的には現時点での診療科目を維持します。特に内科は、今年度より総合的に診察していますが、その中でも専門性を持った内科医がそれぞれの得意分野で診察しています。循環器、脳神経内科医は当院にはいませんが、循環器ははりま姫路総合医療センターから10年来診療支援をいただいております。現在は月1回リモートでの支援になっています。また、月2回、たつの市のかんだ内科クリニックより循環器外来に来てもらっています。ただこの場合は紹介状がいるということになります。</p> <p>脳神経内科については、今年から、はりま姫路総合医療センターから月2回金曜日午後、脳神経専門外来に来てもらっています。こちらにも紹介状がいきます。新病院になってもこの体制でやっていく予定です。全科目に常勤医を配置するのは地域医療では困難ですが、最小限度の人数でも地域の皆さんに対応できる体制をとって診療していきます。</p>

### No. 2 【ドクターヘリについて】

質問	宍粟市はドクターヘリの使用頻度が西播磨地域で特に多い地域であるが、新病院でのドクターヘリの設置等はどうなるのか。
回答	<p>当院の地域医療で果たす救急の役割は、一次救急から二次救急までとなります。現在、全国の三次救急は、拠点病院集約となっています。拠点病院に集約するからこそ、ヘリが必要ということです。この地域の拠点病院は、姫路、加古川、神戸ですが、ヘリコプターであれば神戸でも30分で着きます。二次救急だと思って受けた患者さんが、三次救急だった場合には、現行でもドクターヘリで搬送しています。山崎インターチェンジに安全に着陸できる場所があり、そこに救急車で移送し救命センターへ搬送しています。当院から5分のところでヘリポートの役割を果たす所があるので、建設はしないということです。</p> <p>また、病院にヘリポートを設置する場合は、三次救急の生死を左右するような方を受け入れる場合であって、当院は基本的に一次、二次救急の受け入れでそんな方はいません。稀に当院で重篤化されヘリで搬送される方がありますが、年に1、2例のため、新病院へのヘリポートは必要ないと考えます。市内でドクターヘリの使用頻度が多いとのことですが、これは西播磨消防の救急隊がドクターヘリでの搬送が必要と判断されて姫路などに運んでいるので、新病院にヘリポートをつくる話とは意味が違うということでご理解頂きたいと思います。</p>

### No. 3 【新病院の会計システム等について】

質問	新しい病院ができて、例えば受付や会計システムのこと、患者の待合や家族などの休憩スペースに喫茶店があるかどうか、ソフト的な面を教えてください。
回答	<p>会計窓口は、現在かなりの待ち時間がありますが、新病院では自動支払機を設置して、待ち時間をできるだけ少なくすることを考えています。受付についても、番号で呼ぶなど、今よりスムーズになるように考えています。</p> <p>喫茶店やレストランについては、残念ながら新病院の規模では、関係事業者の確保が難しいと考えていますが、コンビニエンスストアのようなものは、1階に予定しています。</p>

◆説明会当日に頂きましたご意見

一番大事なところは、人材育成や職員教育だと思う。建設工事とあわせて、職員を育成するところも並行して進めていかないと、せっかく新病院を作っても、箱物についていけないのではないだろうか。人を育てることは時間がかかることで、簡単にできないのは重々承知している。常日頃から幹部や管理職が従業員へしっかりとコミュニケーションをとって、職場を盛り上げていくことが必要と思う。当然、工事や費用のことも非常に大事なことだが、本当に安心して病院に行けるか、病院に助けてもらえる、従業員やスタッフ、医師も含めて寄り添ってもらえるかを望んでいると思う。並行して進めることによって理解も深まっていくと思うし、素晴らしい病院になると思う。